商経学叢　経営学部開設10周年記念論文集　2013年12月

原作への誘い（いざな）

――多読学習の傍らで――

白　川　泰　旭

英語力の強化や英語に慣れ親しむことを目的とした「多読」が英語学習の有益なひとつのメソドとして導入されてから久しく，今やその効果が大いに注目を浴びている。そして，多くの研究者によって学生・生徒を対象にさまざまな実験と検証がなされ，昨今では国際学会が世界各地で開催されるまでになってきている。

文法書と辞書を片手に論文や小説とにらみ合い，単語一語一語の意味を正確に掴み，英文構造をしっかりと理解したうえで英文を読み取り，ときには行間まで読むことによって英語力，読解力を身につけることを目標とし，そのためには忍耐力さえ要求されるような精読は，今や英文科や英語学科の学生以外には向かないと言っても過言ではないだろう。

自分の現在の英語力に見合った読み物を書架から気軽に手に取って読み始める。読み進むうち，難しいと感じたり，おもしろくないと感じたりした場合はその場でストップして書架に戻し，別の読み物を選ぶ。そうしているうちに自然に，語彙力の増強，英語読解力の強化といった学力向上効果が得られ，加えて，英語を読む習慣がつき，英語に慣れ親しみ，英語の読み物を読む楽しさを味わい，一冊の本を読破した達成感が味わえる，などといった効果も期待できる。このように，多読とはほとんど苦痛を伴わない英語学習法，あるいは読書法だ。今はやりの言い方をすれば，「学習者にやさしい」勉強法だと言える。

多読の効用は以上のようなものであるが，ここで多読に用いられるテキストに目を転じてみよう。辞書を引かずに読むということが前提である多読用テキスト（以後，「多読版」と呼ぶ）は，理解しやすい英語で書かれた物語や，古今の著名な小説であってもやさしい英語で書き換えられたものでなければならない。つまり，オリジナル（原作）からの「書き換え」（rewrite）という作業が必要となる。その作業過程では登場人物や筋書きを変えることはもちろん，背景や視点を変えることも許されない。では，そのような条件下で多読版作家（リライター rewriter）はどのような書き換え方をしているのだろうか。本稿ではある短編小説を例に取り，その「書き換え」に注目して，原作と多読版を比較し，両者

原稿受理日　2013年 9 月11日

の関係に光を照射してみたい。

I

一人の作家によって創り上げられた作品世界はその作家の感性と想像力の産物であることは言を俟たない。彼／彼女は登場人物，プロット，背景，視点といった諸要素を緊密に絡み合わせてその小説世界を創りあげる。そして，登場人物が発する一言一句，人物描写の方法，クライマックスから大団円へと向かうプロットの展開等，すべて作家による選択や推敲の所産である。したがって，当然のことながら，たとえその中の一語あるいは一部であろうとも変更を加えることは作家の意図を歪めてしまう同時に作品の解釈をも左右することになりかねない。文学的価値の喪失につながることすらある。

一例を挙げてみよう。以下はシェイクスピアの『ベニスの商人』の中でも最も有名な「人肉裁判」の場面で，裁判官に扮したポーシャがユダヤ人の金貸しシャイロックに慈悲を説く，かの有名な一節である。

> The quality of mercy is not strain d,
> It droppeth as the gentle rain from heaven
> Upon the place beneath: it is twice blest;
> It blesseth him that gives and him that takes:（*The Merchant of Venice,* Act IV, Scene 1, l. 2125-28）（underline mine）

このポーシャの台詞のキーワードは mercy「慈悲」である。ポーシャは夫アントニオを救うため，「慈悲は本来強制されるものではなく，慈雨のごとく天から地上に注ぐものだ」と述べ，冷酷で極悪非道のユダヤ人シャイロックにも，その心の片隅に慈悲の心が残されていることに一縷の望みをかけるのである。一方，多読版ではその台詞が次のようにリライトされている。

> The quality of forgiveness is the most important quality of all. It falls like gentle rain from heaven. It is precious to the one who gives it and to the one who receives it.（*The Merchant of Venice,* p. 44）（underline mine）

「寛容の心というものはあらゆるものの中で最も大切な資質だ。それは慈雨のように天から降ってくる」となっている。この「慈悲」から「寛容」への変更によって，シェイクスピアがこの一語で観客あるいは読者に伝えようとした意図がどれほど変わったかは別の議論に託そう。多読学習者が，ポーシャはシャイロックに「寛容」を求めているのだと解釈してテキストを読み進んでゆくことに何ら問題はない。そして多読版『ベニスの商人』を全編通じて明るい男女の陽気な恋物語として楽しく読み通すことに異論を差し挟む余地もない。ただ，筆者が指摘したいのは，多読学習者が先に挙げたような目標のもとでこの作品を読むにしても，せっかく「名作」の世界に触れたのだから，原作では“mercy”という語が使われていること，そしてその語の内包する意味などを知れば，多読版の字面を追うだけの読みが一味違った読み方になるのではないかということだ。

以上のような観点からすれば，原作がどのように多読版に生まれ変わっているのかという点に注目することはあながち無意味なことではないだろう。ここからはリライターが作品を書き換える際に用いるテクニックを分析し，その「変わり様（よう）」を観察し，原作と多読版の間のギャップを検証してみたい。

Ⅱ

多読版は平易な英語で書かれているという大前提のうえに，読者が話の筋を追いやすく，背景，登場人物の人となりなどをできるだけ容易に理解できるという条件がクリアされていなければならない。そのためにリライターは当然，原作中の難しい単語や言い回しを簡単なそれらに書き直す。また，人物描写について言えば，読者の理解を助けるために原作にはないものを付け足したり，逆に削除したり，簡略化したり，時には変更してしまうことすらある。さらに間接話法から直接話法への転換も頻繁に見られる。ここからはアメリカを代表するユーモア作家，マーク・トウェインの「キャラベラス郡の悪名高き飛び蛙」というトウェインならではのユーモアあふれる短編小説を取り上げ，それらの具体的な例を見てゆこう。本論に入る前にまず，原作と多読版の語数について触れておきたい。原作が約2,500語に対して多読版は1,300語弱である。つまり，多読版は原作のほぼ２分の１にまで「縮小」されている。書き換えの過程でリライターの側にはかなりの「力業」が必要だったと推測される。

この物語はいわゆる「ほら話（tall tale)」で，アメリカ西部の田舎町で，何でもかんでも賭けのタネにしてしまうほど賭け好きのジム・スマイリーという男が，町にふらりと現

れた男に蛙を使った賭けをふっかけるが，逆にまんまと一杯食わされるという話だ。人物の描き方は実に軽妙で味があり，挿入されるエピソードはスパイスが利いており，最後のどんでん返しも読者を十分に楽しませる。

ではまず人物描写について，付け足しの例を挙げてみる。

> I found Simon Wheeler dozing comfortably by the barroom stove of the dilapidated tavern in the decayed mining camp of Angel's, and I noticed that he was fat and bald-headed and had an expression of winning gentleness and simplicity upon his tranquil countenance. He roused up and gave me good day. (NJF, 17)[1] (underlines mine)

> I found Simon Wheeler in Angel's Bar in Calaveras, in the north of California, sitting in his favorite chair close to the door. He was asleep, so I had a good look at him. He was a fat old man with no hair on his head but a big white mustache under his nose. He had a simple, kind look on his face.
>
> When Wheeler woke up, I greeted him. (JJ, 1)[2] (underlines mine)

多読版には「カリフォルニア州北部のキャラベラス」という地名が挿入されているが，これは背景知識のない読者が話の舞台となっている場所をはっきりと認識するうえでは大いに役立つ。しかし，「廃れたエンジェルの金鉱採掘飯場」が省かれているために，19世紀のゴールド・ラッシュも下火になった頃の退廃的な田舎町といった舞台の雰囲気や時代背景を読者に意識させることはできない。それ故，そういう町と賭けごとに明け暮れる男という組み合わせの妙味を味わえないのも致し方ない。

次に人物描写についてであるが，一見してわかるように，原作のサイモン・ウィーラー老人に口髭はないが，多読版では「白い口髭」をたくわえた老人として描かれている。ウィーラー老人の表情については，原作では「その穏やかな顔には愛嬌のあるやさしさと素朴な表情が浮かんでいた」とあるのに対して多読版では「素朴で親切そうな顔つき」という説明しかない。リライターは原作の「穏やかな顔」や「愛嬌」を「白い口髭」に込めたのかも知れないが，この付け足された「口髭」は読者が抱く登場人物に対するイメージを変えてしまうし，作者トウェインの意図をも曲げかねない。

もう一例，付け足しの例を見てみる。

> “Rev. Leonidas W. H m, Reverend Le— Well, there was a feller［*sic*］here once by the name of Jim Smiley,［...］but anyway, he was the curiousest［*sic*］man about always betting on anything that turned up you ever see, if he could get anybody to bet on the other side, and if he couldn t he'd change sides. Any way that suited the other man would suit him-any way just so s［*sic*］he got a bet, he was satisfied. But still he was lucky, uncommon lucky; he most always come out winner. He was always ready and laying for a chance; there couldn t be no solit ry［*sic*］thing mentioned but that feller d［*sic*］offer to bet on it and take ary［*sic*］side you please, as I was just telling you.（NJF, 18）

上記は原作からの引用であるが，多読版でこれに相当する箇所を以下に引用する。

> Leonidas W. Smiley, you say ? . . . . <u>He was a hard worker and a good talker,</u> but there was something special about him, too. Jim Smiley liked to bet. He was always looking for someone to bet against. He liked to bet on everything: on the weather, on business, and on all kinds of fights and races. He had good luck and almost always won.（JJ, 1–2）（underline mine）

詳細か否かは別にして，原作でも多読版でも，ジム・スマイリーという男が大変な賭け好きの男で，誰彼なく賭けを持ちかけ，目につくものは何でも手当たり次第に賭けのタネにし，不思議なことにいつも勝っていたということは述べられている。しかし，多読版に出てくる「奴は働き者で話し上手な奴だった」という一文は原作のどこにも出て来ないどころか，ジムが「働き者」であることを仄めかすエピソードなど一切ない。賭けごとに明け暮れるジムは「働き者」とは対極の人物だ。また，ジムを「話し上手」と呼ぶ根拠は何か？この一文はトウェインが創り出したジムと言う人物のイメージをまったく変えてしまう。何から何まですべて原作に忠実である必要はもちろんないが，登場人物の人となりをこうまで変えてしまうような付け足しは，物語の解釈をも左右することになる。この一文を付け加えたリライターの意図はまったく測りかねる。

Ⅲ

次に，描写やエピソードの簡略化について考えてみたい。序論でも述べたが，多読版は読者が容易にストーリーや人物を理解できるように原作が書き換えられたものであるのだから，原作の難解な言い回しや文学的表現は省かれたり簡単な表現に変えられて当然である。また，状況説明や人物描写も簡単になってしまうのもやむを得ない。ここでは，その簡略化が何をもたらしているかを観察してゆく。まず，原作の以下の一節を例に取って多読版と比べてみよう。

> Simon Wheeler backed me into a corner and blockaded me there with his chair, and then sat down and reeled off the monotonous narrative which follows this paragraph. He never smiled, he never frowned, he never changed his voice from the gentle-flowing key to which he tuned his initial sentence, he never betrayed the slightest suspicion of enthusiasm, but all through the interminable narrative there ran a vein of impressive earnestness and sincerity which showed me plainly that, so far from his imagining that there was anything ridiculous or funny about his story, he regarded it as a really important matter and admired its two heroes as men of transcendent genius in *finesse.* I let him go on in his own way and never interrupted him once.（NJF, 17）（underline mine）

ここで強調されているのはウィーラーの語り口の「熱心さと誠実さ」で，「彼自身は自分の話に馬鹿げたところやおかしなところがあるなどとはこれっぽっちも思っておらず，それがきわめて重大なことだと捉えて」いる点が笑いを誘う。しかも「二人のヒーローが策略家としては図抜けた天才だと称賛」しているところがこの老人独特の人の良さを浮き彫りにしている。

一方，多読版では同じ部分が以下のようになっている。

> Simon Wheeler smiled, stood up, and took me to a table in the corner. His chair now blocked the path to the door. I sat and listened silently. No one, I soon realized, could stop Simon Wheeler in the middle of a good story. He

never changed his voice as he moved smoothly from one sentence to the next. Did he think the story was serious or funny? He gave his listener no sign. This was his story. You can decide for yourself.（JJ, 1）（underlines mine）

ウィーラー老人の話しぶりについての説明は大幅に簡略化されているが，読者は彼の話しぶりが淡々としていることだけは容易に読者に伝わってくる。しかし，「彼はその話が真面目なものだと思っていたのだろうか？あるいはおかしなものだと思っていたのだろうか？……判断はあなたがたに任せます」と，判断を読者に丸投げしているために老人の一途さとか，彼がどれほどこの逸話にコミットメントしているかは伝わってこない。

上に述べた例の他にもエピソードや説明が簡略化された箇所は多い。例えば，ジムが賭けごとに使うために飼っていた馬やブルドッグについては，それらが競争や闘いでいつも序盤では最後尾を走っていたり，相手にやられっぱなしだったりで，見ている誰もがジムの負けだと思うのだが，土壇場になって大逆転を演じてジムは大儲けをするというというエピソードが原作では紹介されている。そこではウィーラーによってその馬やブルドッグのユニークな習性や破天荒な闘いぶりが実に滑稽に語られ，読者はウィーラー独特の誇張と語り口によるユーモアを十分に味わうことができる。しかし，多読版ではかなり簡略化されているためにそうした笑いを誘うユーモアは伝わらなくなっている。ちなみに，馬のエピソードに費やされている語数を比べてみると，原作が約150語であるのに対して多読版では約80語，ブルドッグのエピソードについては，原作の約430語に対して多読版では90語弱と極端に少なくなっている。

Ⅳ

次にストーリーやエピソードの変更に目を向けてみよう。細かく見ていけば，変更された箇所はかなり多いことがわかるのだが，変更によって作品の雰囲気や解釈が大きく変わると思われる箇所を４つ取り上げて考察してみたい。まず，１つ目は以下の物語の冒頭部分に見られる。

In compliance with the request of a friend of mine who wrote me from the East, I called on good-natured, garrulous old Simon Wheeler and inquired after my friend's friend, Leonidas W. Smiley, as requested to do, and I hereunto

append the result. I have a lurking suspicion that Leonidas W. Smiley is a myth, that my friend never knew such a personage, and that he only conjectured that if I asked old Wheeler about him, it would remind him of his infamous Jim Smiley and he would go to work and bore me to death with some exasperating reminiscence of him as long and as tedious as it should be useless to me. If that was the design, it succeeded.（NJF, 17）（underline mine）

「レオニダス・W・スマイリーが実在の人物ではなくて，友人にしてもそんな人物は知らなかったし，もし私が彼のことをウィーラー老人に尋ねたら，老人はかの悪名高きジム・スマイリーのことを思い出し，長ったらしい話を始めて……私を死ぬほどうんざりさせるだろうと思っていたのではないかというかすかな疑念を抱いている」と語り手は述べている。“I have a lurking suspicion . . .”と現在形で書かれていることから，語り手はその時には気がつかなかったんだけれども，今になって思い返してみれば，あれは友人の策略ではなかったのか，と思えてきて，「もしそれがたくらみだったとしたら，成功だった」と認め，友人の「たくらみ」にまんまと引っ掛かってしまったことに苦笑いしている様子が垣間見える。深読みとの批判を恐れずに言えば，退屈な田舎町で滞在する語り手にほんの少しの刺激を与えてやろうという友人の配慮であったのかも知れない。語り手にしてみれば，ウィーラー老人のもとを訪ねたのは友人の消息を知りたいと言う語り手の友人の依頼を受けてのことで，そこには語り手の親切で友情に厚い人となりが窺える。

一方，以下の多読版の冒頭部分からは上記のような語り手とその友人とのほほえましい関係は見えない。

While I was visiting the west coast of this great country, an old friend wrote a letter to me. He made an interesting suggestion:

“You should visit old Simon Wheeler. Ask him about Leonidas W. Smiley. Wheeler won t know Leonidas—he doesn t exist. But when you say the name, he ll remember Jim Smiley. Wheeler s got some funny stories about Jim.”（JJ, 1）（underlines mine）

まず気づくのは，原作では使われていない直接話法が現れていることだ。経験の浅い読者にとっては間接話法よりも直接話法で書かれた英文の方が理解しやすいのは当然で，その

ために多読版で話法を変えることに何ら問題はない。しかし，多読版では友人が語り手に「（ウィーラー老人に）レオニダス・W・スマイリーのことを尋ねてみろ」言うだけで，レオニダスという人物が一体何者なのかはまったくわからず，唐突感がつきまとう。また，「（レオニダスは）実在しない」と初めから語り手にはっきりと教えてしまっているため，彼がウィーラー老人のもとを訪れた目的は，原作ではレオニダスの消息を尋ねるためであったのに対して，多読版ではウィーラーの話を聞くことに変わっている。この変更によって語り手が友人にかつがれたことも知らずにウィーラーの取りとめもない話を聞く羽目になったことからくるおかしさはまったく失われてしまっている。

次に，ジムが悪たれぶりを発揮するエピソードを原作の中に見てみよう。

> Why, it never made no difference to him—he d bet on *any* thing—the dangdest［*sic*］feller. Parson Walker s wife laid very sick once for a good while, and it seemed as if they warn t［*sic*］going to save her; but one morning he come［*sic*］in and Smiley up and asked him how she was, and he said she was considerable better—thank the Lord for his inf'nite［*sic*］mercy—and coming on so smart that with the blessing of Prov dence［*sic*］she d get well yet; and Smiley, before he thought, says, 'Well, I ll resk［*sic*］two-and-a-half she don t［*sic*］anyway. (NJF, 18)（underlines mine）

この一節から，「この辺りでは最も立派な教誨師」（NJF, 18）と謳われているパーソン牧師の病床に就いている奥方ですらも賭けの種にしてしまうジムと言う男がどれほどの不敬の輩であるかは明白だ。しかも，牧師の「（妻は）快方に向かっている」と言う返事を聞くなり，彼の神経を逆なでするかのごとく「良くならねえ方に 2 ドル半賭けるぜ」というのだから呆れる。

それに対して多読版ではこの部分が以下のように変更されている。

> His boss s wife had a terrible illness. She was sick for a long time. Then, one morning, the boss came to work with good news.
>
> "How s your wife today ?" one man asked.
>
> "She s much better today, thank you," answered the boss. "I hope she ll be well by the end of this week."

Without thinking, Smiley said, "I ll bet five dollars she s dead by Saturday." That s how he was.（JJ, 2）（underlines mine）

上の引用文の3箇所の下線部が原作とは異なる部分である。まず，賭けの相手が原作の「牧師」から「彼の上司」に変わっている点であるが，先に述べた理由から，「上司」ではこの場面のおかしさがまったく失われてしまう。次に，原作では奥さんの病状を尋ねたのはジムであったのに多読版では「ひとりの男」になっている点。奥さんの病状を尋ねたのがジムだったからこそ，次のジムのとんでもない提案に牧師はもちろんのこと読者も仰天すると同時に呆気に取られるのだ。その意外性と「とんでもなさ」こそがこの物語独特のユーモアだと言える。ジム以外の人物が牧師に奥さんの病状を尋ねたところで意外性は生まれない。そして変更の3箇所目は，原作ではジムが「良くならねえ方に2ドル半賭けよう」と言っているのに対して，多読版では「土曜日までにゃ奥さんが死ぬって方に5ドル賭けよう」となっている箇所だ。この変更はいささか度を超えていると言っても過言ではない。「良くならない」も「死ぬ」も言葉は違えども意味するところは同じということになるかも知れないが，不敬の輩であってもろくでなしであっても，どこか憎めないところのあるジムに，「土曜日までにゃ死ぬ」などと冷酷な言い方をさせてはジムをただの悪党に貶めてしまいかねない。主人公のジムは人の不幸さえ金稼ぎの種にしてしまうような不埒な男だが，それでもあっけらかんとしていて暗さなど微塵も感じさせないところが西部的ユーモアを具現していると言える。にもかかわらずここまで変えてしまってはこの物語の大切な要素を失ってしまうことになると言っても過言ではなかろう。

3番目の例は先にも触れたジムが飼っていたブルドッグのエピソードである。このブルドッグはアンドリュー・ジャクソン(3) という名前で，見かけは平凡でただうろつくだけが取り柄で，特段目を見張るような技を持っているようには見えなかった。お金が賭けられた格闘試合では，序盤は相手にタックルされたり，噛みつかれたり，くわえて投げとばされたりしても素知らぬ顔をして何も抵抗せず，相手に好き放題やらせておく。その様子を見ていた賭けに参加した連中は賭け金を相手の犬にどんどん上乗せしてゆく。そして，その額が2倍，3倍になり，いよいよ賭け金が出尽くしたのを見計らうと，突然アンドリューは相手の犬の後ろ脚の関節に噛みつき，相手が負けたという合図をするまで「たとえ1年間でも離さない」（NJF, 19)。そんな闘い方で次々と勝利を重ねていたのであったが，ある日，後ろ足が2本ともない犬が相手になる。以下はその場面の一部である。

Smiley always come out winner on that pup till he harnessed a dog once that didn t have no hind legs, because they d been sawed off in a circular saw, and when the thing had gone along far enough and the money was all up and he come to make a snatch for his pet holt, he see in a minute how he d been imposed on and how the other dog had him in the door, so to speak, and he ‘peared surprised, and then he looked sorter discouraged-like and didn t try no more to win the fight, and so he got shucked out bad.（NJF, 19）（underline mine）

賭け金が出尽くし，さあ，いざ得意の「後ろ足噛みつき」にかかろうとしたときに初めて相手の後ろ足がないことを知り，すっかり戦意を喪失したアンドリューはその相手の犬に散々にやっつけられてしまう。そして，「なぜそんな犬と対戦させたんだ？」と言わんばかりにジムに悲しげな視線を送り，そのまま息絶えるのである。ここでの問題は相手の犬が後ろ足を 2 本とも失くした理由である。上記の引用にあるとおり，相手の犬は「丸鋸で両方の後ろ足を切断されていた」のだ。つまり，アンドリューの必殺技で頼みの綱である「後ろ足噛みつき」を完全に封じてしまうために，その犬は強欲な人間によって故意に後ろ足を奪われていたのである。それは単なるブラックユーモアだけではなく，そこには人間の身勝手な欲望に対する皮肉も込められているとは読めないだろうか。

同じ場面を多読版から引いてみる。

Andrew Jackson won every fight until one sad day when the other dog in the fight didn t have any back legs ! It was the result of an accident in a farmyard. Andrew Jackson didn t know what to do. What could he get his teeth into ? He lost the fight, lay down, and died. I always feel sorry when I remember his last night. Jim Smiley loved that little dog.（JJ, 2）（underlines mine）

ここでは，「農家の庭での事故の結果」その犬は両後ろ足を失ったと書かれている。こう書いてしまうと，賭けに勝つためには動物の足を切り取ることすら厭わない人間の残虐性はすっかり覆い隠されてしまう。動物愛護団体的視点から見ればこの変更は妥当なものだろうが。

では，エピソードの変更の最後の例を挙げてみよう。この場面は物語のタイトルにもなっている「飛び蛙」が登場するクライマックスシーンである。ジムはこの蛙をダニエル・

ウェブスター(4) と名づけ，自宅で 3 ケ月間にわたってみっちりとジャンプを仕込み，とてつもないほど遠くまでジャンプができる「飛び蛙」に育て上げる。そしてその蛙を小さな格子の箱に入れて持ち運び，ときどき町に出ては賭けの相手を探すのであった。そんなある日，ジムはよその土地からふらりと町にやって来た一人の男と出会い，その男に「（ダニエルは）キャラベラス郡のどんな蛙よりも遠くへ飛べるんだ」（NJF, 21）と自慢し，どんな蛙が相手であっても「ダニエルが勝つ方に40ドル賭ける」（NJF, 21）と持ちかける。男は「俺はこの町に来たばかりで蛙は持っていない。持っていたらあんたと賭けをやるんだがな」（NJF, 21）と応ずる。以下はそれに続くやり取りである。

> “And then Smiley says, ‘That s all right—that s all right—if you ll hold my box a minute, I ll go and get you a frog. And so the feller［*sic*］took the box and put up his forty dollars along with Smiley s, and set［*sic*］down to wait.
>
> “So he set there a good while thinking and thinking to himself, and then he got the frog out and prized his mouth open and took a teaspoon and filled him full of <u>quail-shot</u> — filled him pretty near up to his chin—and set him on the floor.（NJF, 21）（underline mine）

待ちに待った賭けの相手が見つかって興奮気味のジムは「俺がちょっと行っておまえさん用の蛙を捕まえて来てやるさ。その間，この箱を持っててくれ」と言ってダニエルを入れた格子の箱を男に預けて川へ蛙を取りに出かける。ところがその間に，男はダニエルの口をこじ開けて顎のあたりまで「ウズラ撃ち用の散弾を詰め込んだ」のである。

一方，多読版ではこの場面が以下のようになっている。

> “Don t worry. That s no problem,” Smiley said. “You hold my box for a minute, and I ll find a frog for you.”
>
> The stranger put his forty dollars on the table and took the box. Smiley ran out the door toward the river.
>
> The stranger sat in the bar here, thinking. Then he opened the box and got Daniel Webster out. He held the frog s mouth open and poured <u>sand</u> into the animal's stomach.（JJ, pp. 3–4）（underline mine）

男がダニエルの口から詰め込んだのは「ウズラ撃ち用の散弾」ではなく「砂」になっている。確かに「ウズラ」の意の“quail”や，「散弾」の意の“lead shot”もしくは“slug”などの単語は初級学習者にとっては難しい。したがって，「散弾」から「砂」への変更はやむを得ないだろう。しかし，原作でトウェインが男に「砂」でも「石」でもなく，敢えて「ウズラ撃ち用の散弾」をダニエルの口に詰め込ませたのには何か理由があってしかるべきだ。鉛の持つイメージはやはり「どっしりと重い」ということだろう。事実，鉛の比重は砂や石の 4 ～ 5 倍である。口からあふれるほど鉛の弾を詰め込まれたダニエルが，砂を詰め込まれるよりもどれほど重くなったかは容易に想像できるし，そのような状態でジャンプなど到底できるものではなく，勝負の結末は火を見るより明らかだ。

では，事の顛末を見てみよう。

> “‘Now, if you re ready, set him alongside of Dan l, with his forepaws just even with Dan l s, and I ll give the word. Then he says, ‘One-two-three-git［*sic*］! and him and the feller touched up the frogs from behind, and the new frog hopped off lively, but Dan l give a heave and hysted［*sic*］up his shoulders-so-like a Frenchman, but it warn t［*sic*］no use–he couldn t budge; he was planted as solid as a church, and he couldn t no more stir than if he was anchored out. Smiley was a good deal surprised, and he was disgusted too, but he didn t have no idea what the matter was, of course.（NJF, 21）

ダニエルは必死に飛びあがろうとするが，肩が上下するだけで「教会（の建物）のようにしっかりと根を下ろして身動きできず」，「錨を降ろしたように」動き出すことすらできなかった。結局，２匹の蛙に競争させるまでもなくジムは賭けに負け，勝った男はジムの40ドルを取り，その場から去ってゆく。男が去った後，ダニエルが飛べなかったことにどうしても合点がいかず，ダニエルをしげしげと見つめていたジムは「こいつはいかにもだぶだぶに肥えているように見えるぞ」（NJF, 21）と言ってダニエルを掴みあげて，その重さに驚く。そして逆さまにして揺するとダニエルは散弾をどっさり吐き出す。そこでようやく騙されたことに気づいたジムは地団太を踏むが後の祭りである。

物語の結末は以上のとおりであるが，ここで今一度，「散弾」が内包するものを考えてみたい。ジムを出し抜いた男がウズラを撃つための散弾を持っていたことに違和感を覚えるかも知れないが，時は西部開拓時代，男たちはハンカチを持つような感覚で銃を持ち歩

き，「ちょっと散歩に出たついでに晩飯のオカズでも撃ってくるか」という時代であった[5]。「砂」ではこの時代感覚は出て来ない。また，「散弾」が「金」の象徴だと捉える批評家もいる。つまり，この作品は1865年の発表で，「散弾」がその後の「金ぴか時代」の到来とその時代の金満汚職を予兆しているというのだ。そして，いささか飛躍しすぎの感もあるが，「散弾」＝「金」でだぶだぶに太ったダニエルが，賄賂にまみれる役人，政治家の象徴であるとの分析もあるほどだ。やはり，「砂」ではこういう象徴まで読み込むことはできない。

以上，原作から多読版への書き換えの際に行われる人物描写やエピソード等の「付け足し」や「簡略化」や「変更」がどのようなものかを観察してきた。そしてそれらによって物語の雰囲気や登場人物の印象が変わったり，作者の意図や原作のメッセージ性が伝わらなくなったり，人物や出来事の解釈や作品自体の解釈が変わってしまったりすることを明らかにしてきた。しかし繰り返し断っておくが，筆者はリライターのそうした作業を批判しているのでは決してない。それどころか，限られた条件や制約の中で原作の味わいをいかに易しい表現で伝えるかに苦心砕身されていることを思うと，「称賛」という言葉以外にその仕事を評価する言葉は見当たらない。

筆者が提議したいのは，せっかく多読版でその小説の世界に触れる機会を持ったのなら，原作にも多少なりとも興味を持って欲しいということだ。「多読版ではこのような単語や言い回しが使われているけれども原作ではこう書かれているんだ」とか，「多読版ではこの箇所はこう解釈できるけれども，原作を読むと全然違った解釈が可能なんだ」というような一種の「気づき」があってもいいのではないか。そして何年か後にでも原作を読んでみたいという興味が湧けば，それもまた，冒頭で述べた多読の様々な効用に加えてまた新たな効用と言えるのではないだろうか。

しかし，文学作品を原書で読んだ経験のない多読学習者が原作と多読版の違いに気づくことなど端から無理な話で，しかもその違いによって解釈がどのように変わってくるか，その背景には何があるか，どのような象徴意味があるかなど，分析することは到底不可能である。したがって，当然ながらそこには指導者による指摘や助言が必要となってくる。そこで批判を恐れずに言えば，多読学習指導者も原作に関する知識を幾分かでも持ち合わせていて，その知識を活かし，学習者になんらかの示唆を与えることができれば理想的だと言えよう。

注　釈

＊本論は The First Extensive Reading World Congress（2011年 9 月 4 日　於京都産業大学）にて発表した原稿を加筆修正したものである。

⑴　“The Notorious Jumping Frog of Calaveras County,” *The Writings of Mark Twain,* Vol. VII, 1995. Hon-no-Tomo Co. Ltd. 以下 NJF と略記し，本書からの引用はそのページ番号のみを記す

⑵　“Jim Smiley and his Jumping Frog,” Penguin Readers, 2008. Pearson Education Limited 以下 JJ と略記し，本書からの引用はそのページ番号のみを記す

⑶　第 7 代米国大統領 Andrew Jackson（1767–1845）と同じ名前をつけている。

⑷　米国の政治家 Daniel Webster（1782–1852）と同じ名前をつけている。

⑸　近畿大学文芸学部　辻　和彦准教授にご教示いただいた。